

ベトナムビンチャン寺を訪れた。

ホーチミンから車で2時間ほどの都市ミトーの郊外にある、19世紀末に造られたフランス風装飾の仏教寺院である。

その外観からまさにフランス植民地時代の建築と感じつつアプローチを進むとその洋風な外観とは異なり、仏教寺院を感じさせる蓮の水盤がある。

内部に入り中世ヨーロッパ修道院の様式を思わせるアーチの柱廊を進むと開放的な中庭がある。その中央には築山のような植栽に満ちた外構がある。

本堂へ進むと60体もの仏像があり、その配置は仏教寺院そのものである。

しかしその天井にはシャンデリアが配置され、調度品も含め装飾的にはヨーロッパ的である。

フランス植民地時代とはいえ、中世ヨーロッパの建築様式に仏教寺院がもつアジア的な要素を柔軟にあてはめた構成力に驚くとともに、その背景にベトナムの近代史の複雑さを感じた。

